

リハビリテーション治療学演習

[演習] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 中川賀嗣 田村至 黒崎芳子

【概要】

高次脳機能障害とそのリハビリテーションについての実践的手法を学ぶ。

【学修目標】

一般目標：高次脳機能障害研究の現状を理解する。

行動目標：高次脳機能障害の各症状に対するリハビリテーションを理論に基づいて実施できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 5	高次脳機能障害研究の現状	高次脳機能障害研究の現状についての基礎的知識を総括する（失語、失認、失行や前頭葉機能障害、記憶障害、脳梁損傷ほか）。	中川賀嗣
6) 10	失語、高次脳機能障害（認知症、前頭葉機能障害など）にかかわるリハビリテーション	脳血管障害、神経疾患における認知症の評価、認知リハビリテーションについて学ぶ。	田村至
11) 15	失語・高次脳機能障害（記憶障害、前頭葉機能障害など）に関わるリハビリテーション治療	失語・高次脳機能障害領域の、とくに記憶障害、前頭葉機能障害などのリハビリテーションに注目し、実際に研究を遂行するうえで必要な基本的な研究技術、手法について学ぶ。	黒崎芳子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

演習後半の技能を評価する（口頭での説明50%、技能の到達度50%）

【教科書】

高次脳機能障害に関する標準的評価課題や学術雑誌の内容に基づいて行う。

【学修の準備】

予習：マニュアルや文献の読み込み等を十分に行う（30分）

復習：各高次脳機能障害評価法の特徴をよく復習する（30分）

【実務経験】

田村至（言語聴覚士）

黒崎芳子（言語聴覚士）

中川賀嗣（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床経験に基づく講義を行う。